

From the
People of Japan

東エクアトリア州と上ナイル州における避難民の尊厳ある 持続的帰還のため、紛争の影響を受けたコミュニティの 安定化を図るプロジェクト

\$ 予算: 1,227,407 米ドル

🕒 実施期間: 2023年1月~2024年1月

開発課題

南スーダンは長年の戦争により、慢性的な開発不足に陥っている: 推定1,220万人の人口のうち、800万人以上が極度の貧困にあえぎ、何らかの人道支援を必要としている。国内避難民 (IDP) は約200万人、難民は35万人で、その大半がスーダンからの難民である。R-ARCSSの調印以来、50万人以上の難民が帰還しているが、230万人以上の難民・難民希望者が近隣諸国に未だ残っている。

南スーダン共和国の東エクアトリア州は、南スーダンで最も開発が進んでいる州のひとつである。しかし、2022年1月以降、同州はマグウィとカポエタで家畜略奪者による武力攻撃に直面し、200人以上が死亡、約8300人が避難し、1万頭以上の家畜の略奪、家屋や地域インフラの破壊、国内避難民や難民の帰還への妨害が発生している。

上ナイル州は、組織的な勢力による暴力やコミュニティ間の衝突など、非常に脆弱な状況にある。2022年には、紛争の頻発地域が国レベルの不安定な潮流に大きな影響を与え、避難民の統合の進展を妨げた。避難民が帰還を開始する中、人道的手段から開発的手段への移行を維持するためには、被災したコミュニティを安定させることが急務である。これはまた、同国の人道的危機の中で他の国家に希望を与え、人道-開発-平和のネクサス・アプローチ (トリプル・ネクサス) の加速的実施と、マグウィとカポエタの各郡に有効な異なるモデルの確立を求めることになる。このプロジェクトは、結果を強化し、マグウィとカポエタの地域間家畜紛争の影響を受けたコミュニティの帰還を促進する。

プロジェクトの目的

東エクアトリア州と上ナイル州において、50%が女性である警察地域連携委員会 (Police Community Relations Committees: PCRC) を設立し、運用を開始する。

平和委員会を通じた平和基盤の強化、平和対話の実施、トラウマの治癒、和解、信頼とガバナンスの構築を通じた社会的結束の構築。

農業生産と生産性を向上させ、食料安全保障と地域経済回復のための生計機会を確保するために不可欠な、収入とコミュニティ生産インフラの構築を提供する。

プロジェクトの成果

市民の安全と権利を監視、促進、保護し、特に社会的弱者やSGBV生存者のための司法へのアクセスを増加させるために、あらゆるレベルの制度的能力と慣習的メカニズムが強化される。

郡およびパヤムレベルでの平和基盤、結束、和解、信頼、説明責任のあるガバナンスの強化。

政府やコミュニティのインフラの確立と復旧、生計と雇用の機会の創出を通じて、帰還民と受入コミュニティの安定化を図る。

パートナーシップ

日本政府
在南スーダン日本国大使館
南スーダン司法省、内務省 (SSNPSおよびNPSS) 司法憲法省、ジェンダー・児童・社会福祉省、県委員会

SDGSへの貢献

